

---

# 地域産業における市場構造の 分析をめざして

—平成9年度Aプロジェクト研究の中間報告—

チーフ 大 泉 英 次  
(和歌山大学経済学部)

## 1 はじめに

平成9年度の和歌山地域経済研究機構Aプロジェクト研究において設定されたテーマは、「和歌山県及び和歌山市の経済市場構造の特性とその対応について」というものである。平成9年6月に第1回の研究会を行い、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所、和歌山大学経済学部からの各3名、合計9名のメンバーによる共同研究を開始して、今日にいたっている。

ここでは、①本プロジェクトにおける研究テーマの意味、②本プロジェクトにおいて採用された調査研究方法、③本プロジェクトにおける共同研究体制とその活動の経過、④最終的な調査研究報告書において予定されている内容、等について説明したい。

## 2 本プロジェクトにおける研究テーマの意味

近畿あるいは関西経済圏において、和歌山県経済がもっている特性はどのようなものか。これを「経済循環の地域的な特性」という形でとらえていこう、というのが本プロジェクトの基本的な目標である。

県経済の活性化、産業の振興そして県民生活の向上に必要な施策を考える場合、さまざまな施策が個々に独立して行われるのであっては、その有効性は限界がある。それぞれの施策が地域経済のどういう側面にたいして効果をもち、そしてその効果の相互関係はどのようなものか、が理解されることで諸施策の有効性は高まる。そのためにも地域経済の仕組み、その特性を理解することが必要なのである。

そもそも経済活動というものは、財およびサービスの生産→流通→消費の流れ（循環）から成り立っている。この経済循環は、市場経済の発達につれて、全国的な、あるいは今日では世界的な広がり（グローバル化）のなかで成立している

ことはたしかである。その意味で経済活動に国境はないし、境い目はない。しかし他方でやはり、社会的文化的な、あるいは行政的な側面をも考慮して、1つの相対的に独自のまとまりとして地域というものを考えることはできるし、地域における経済循環およびその特性をとらえる方法として、地域産業連関表が用いられる。地域産業連関表とは、1つの地域における、原材料・中間製品の部門間取引、賃金・利潤等の付加価値の構成、資本形成と最終消費について、投入と産出の構造を一定の期間（1年）でまとめたものである。ただし、そこではすべてが統計的に把握された経済量（金額）で表現される。したがって、これを見ただけで地域経済循環のありよう、その特性について具体的なイメージをえることは難しい。

ではどうすれば、地域経済循環についてのもっと具体的な、量的側面だけでなく質的な側面も含めた理解をえられるのか。これが本プロジェクトのもっとも基本的な課題である。

### 3 本プロジェクトにおける調査研究方法

この課題に接近するために本プロジェクトが採用した調査研究方法、手順は、つぎのようなものである。

和歌山県の産業のうち、まず製造業を取りあげて、その製造業に携わる諸企業の「市場構造」を調査分析しようというのである。

製造業の企業（もちろん、すべての産業の企業、経営もそうであるが）は、財の製造にあたって様々な種類の市場と関わりをもっている。原材料や資金を調達する。従業員を雇用する。製品を出荷あるいは販売する。これらの活動で企業が関わりをもつのは、原材料、半製品、最終製品の調達、出荷（販売）市場であり、労働市場、金融市場である。個々の業種、企業がこれらの市場とどのような形で関連をもつか、すなわち、どういう種類の財、商品をどういう規模、比率で調達するかは、それぞれの業種、企業のもつ製造技術のありかたによって決まってくる。本プロジェクトでは、これらを一括して産業（または企業）の「市場構造」と名づけている。

つまり、地域の経済循環の特性を、さしあたり、製造業の企業がそれぞれもっている市場構造の特性という側面から分析しようというのである。

つぎに、まず製造業の企業の調査から出発するといっても、

これまた業種や企業は多様であって決してひとくくりには扱えない。そこで、地域製造業を、①伝統企業型、②下請企業型、③革新企業型、④大企業型、の4つに類型化し、これらについて、それぞれ調達市場、販売（出荷）市場、雇用市場の特徴を分析することにした。

ここで、①伝統企業型とは、本県に独自の資源、技術あるいは技能等に基盤をもち、早くから発展を示し今日にいたっている企業群をさし、②下請企業型とは、主として県外の元方企業から部品・半製品製造、素材加工等の注文を請け負う形で営業している企業群をさす。また、③革新企業型とは、経営上あるいは技術上の高度な技術革新を達成し、これにもとづき顕著な成長をとげている企業群をさし、そして、④大企業型とは、全国的あるいは国際的に事業所を展開し、その事業本社あるいは事業所が本県に所在する企業群をさしている。

もちろん、本県に集積、展開する諸業種および企業群は、この4つの類型に完全に分類できるわけではない。4つの類型の複数にまたがるような特徴をもつ企業も多いのであって、その意味でこの類型分けは、あくまで諸業種、諸企業のそれぞれがもつ主要な側面に注目して行われるものである。

こうして、企業（ここでは製造業の企業）がそれぞれもつ市場構造は、企業の製造技術のありかた、そしてこの類型分けに示される経営上の特質によって異なっているという仮説を立て、これを実証的に検討することが、本プロジェクトの採用する調査研究方法である。

#### 4 本プロジェクトにおける共同研究体制と活動経過

平成9年6月の第1回研究会以降、同年12月までに計6回の研究会を行った。この間、研究テーマについてのブレイン・ストーミングから始まって、調査研究の方法と調査研究計画をめぐる討論、さらに和歌山化学工業協会ヒアリング調査、太洋工業株式会社ヒアリング調査および視察を行ってきた。上に述べてきた、本プロジェクトにおける研究テーマの具体的な意味づけ、調査研究方法等は、これらの活動を通じて確認されてきたものである。

その後、調査研究報告書の作成にむけて、さらに研究体制をつぎのように再構成した。

調査研究の対象を、和歌山市およびその近隣地域における製造業に限定する。また、上記の4類型区分のうち、①伝統企業型、②下請企業型、③革新企業型、に該当すると考えられる業種、企業をとりあげ、これについて3つの研究チーム（各3名のメンバーで構成）を設けて、それぞれ調達市場、販売（出荷）市場、雇用市場の特徴を調査分析する。さらに、調査分析の統一性を保つため、崎山氏の作成にかかる調査票にもとづいて、関連する資料・データ等の収集と分析、業界団体あるいは個別企業にたいするヒアリング調査を行う。

平成10年1月以降は、こうした研究計画、手順にもとづき、各研究チームごとにそれぞれ活動しているところである。

## 5 調査研究報告において予定される内容

現在の時点で、最終的な調査研究報告において予定されている内容はつぎの通りである。

- (1) 調査研究報告書のタイトルは「和歌山市地域産業の市場構造」とする。

対象地域は和歌山市（およびその近隣地域）とし、製造業を主たる対象とする。ただし、産業構造全般との関わりで、必要に応じて県域全体ならびに他産業にも及ぶ。

- (2) 調査研究報告書の構成は大略つぎのとおりとする。

- ①最近の県産業構造とその変動

- ②最近の和歌山市域経済の動向ないし景況

- ③地域産業（企業）の諸類型とその市場構造

- (3) 研究テーマである「経済市場構造の特性とその対応について」のうち、「対応」の意味は、ここでは各業種、企業において市場構造とその変化にたいする業界組織および個別企業としての対応はどういうものか、ということである。この点にも調査分析を及ぼすことで、県下の経済および産業の振興策にたいしても資するような成果を達成できるよう努力したいと考えている。

本プロジェクトの研究員は次の通り

和歌山大学：大泉英次、橋本卓爾、大澤 健

和歌山商工会議所：宮本澄麿、松下隆三、田中守成

和歌山社会経済研究所：中浴久雄、窪田正平、崎山頌一